

## 日本の航空会社で初となる、 電動ハイリフトローダー・電動ベルトローダーの運用を 12月17日より羽田空港で開始します



TREPEL社製電動ハイリフトローダー



EINSA社製電動ベルトローダー

JALは、日本の航空会社で初めて電動ハイリフトローダー（以下、「HL」）、電動ベルトローダー（以下、「BL」）を導入し、2024年12月17日（火）より、羽田空港で本格運用を開始します。

HLは、手荷物や郵便物、貨物などを入れた航空機専用のコンテナやパレットを牽引するトーイングトラクター<sup>(\*1)</sup>と連携して、航空機の中へコンテナやパレットを搬入、搬出する器材です。導入するTREPEL社製の電動HLは、世界でも多くの実績があり、フル充電の状態ですら約1～2日のハンドリングが可能です。

また、BLは貨物の積み降ろしに関わる器材で、動力コンベアーを装備し、旅客機の後方にある、ばら積み専用の貨物室から、乗客が預けた手荷物や貨物を降ろすために活躍する器材です。導入するEINSA社製<sup>(\*2)</sup>は、世界でも多くの実績があり、フル充電の状態ですら約1～2日のハンドリングが可能です。



ハイリフトローダーでの作業の様子(イメージ)



ベルトローダーでの作業の様子(イメージ)

このたび電動HL並びに電動BLを導入することで、従来比でCO2排出量をゼロに削減し、静音性も向上します。このことにより、オペレーターの労働環境の改善や、空港周辺の騒音・環境問題を軽減、さらには地球環境保全に寄与することが期待できます。

JALはこれからも地球の環境保全に寄与し、より持続可能な航空業界の実現に向けた取り組みを継続してまいります。

(\*1)日本航空グループでは、トーイングトラクターは2022年度に電動トーイングトラクターを導入済みです。

(\*2) 来年2月TiPS社製導入予定